

指定管理者が行う公の施設の管理状況全期間評価

施設所管部名: 環境森林部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県民の森（三重郡菰野町大字千草字西貝石7181-3）
指定管理者の名称等	三重県森林組合連合会 代表理事会長 青木民夫（津市桜橋1丁目104番地）
指定の期間	平成20年4月1日～平成23年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	ア 県民の森の森林、植物等の管理に関する業務 イ 県民の森の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 ウ 県民の森の施設、設備の利用に関する業務 エ 自然体験型のイベントの実施に関する業務 オ ホームページ等による県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 カ その他の県民の森の管理上必要と認める業務

2 管理業務の実施状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H20	B		3年間の管理期間を通じて、森林・植栽木・芝生広場などの適切な植物管理、自然学習展示館や消防設備、遊具等の保守点検と巡回活動による異常個所の早期発見等に努め、施設の適正な維持管理や環境の美化に取り組んでいる。施設の管理状況について、期間中の来園者アンケート結果では、平均して回答者の87%から高評価を得ている。 マツクイムシ被害拡大防止のため、樹幹注入を実施するとともに、適切な間伐を実施するなど、園内の森林環境の保全に取り組んだ。除草作業についても、モリメイトとの協働により適正に管理されている。
H21	B		
H22	B		

3 施設の利用状況

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間におけるコメント
H20	B		来園者やイベント参加者への聞き取りやアンケート調査により、利用者のニーズ把握に努めている。来園者アンケート結果で、期間中を平均して回答者の95%が「楽しめた。」と回答しており、施設利用の満足度は高い。また、イベント参加者へのアンケート調査では、平均して91%が「良かった」と回答している。 しかし、来園者アンケートで、イベント開催等の情報について、平均して50%以上の人が『知らない』と回答しており、イベント等の情報発信・PRが不足していたと考えられる。
H21	B		
H22	B		

4 管理業務に関する経費の収支状況(全期間)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
指定管理料	69,390,000	事業費	29,712,626
利用料金収入	0	管理費	39,661,945
その他の収入	0	その他の支出	0
合計 (a)	69,390,000	合計 (b)	69,374,571
収支差額 (a)-(b)	15,429		

※参考

利用料金減免額	
---------	--

5 成果目標及びその実績

	指定管理者の自己評価	県の評価	全期間における成果目標及びその実績				
			成果目標項目	目標値	H20実績値	H21実績値	H22実績値
H20	B		施設利用者数	120,000	115,383		
			イベント等開催数	24	25		
H21	B		施設利用者数	120,000		116,452	
			イベント等開催数	24		24	
H22	B		施設利用者数	120,000			117,101
			イベント等開催数	24			29
全期間におけるコメント							
<p>施設利用者数については、3年間を通じて目標値を達成出来ていないが、年々確実に増加しており、自然学習展示館の耐震化工事による閉館の期間(平成21年6月から平成22年7月)を考慮すると、ほぼ達成していると考えられる。</p> <p>イベント等の開催数について、期間中は平均26回を開催し目標数値を上回っている。</p>							

6 総括コメント

<p>三重県森林組合連合会は、森林管理についての専門的な知識や技術があり、常勤職員の適切な配置計画、危機管理や責任体制など必要となる組織的な管理運営体制が確立されていることや、周辺の観光施設との連携など、県民が利用するための保健休養林として、適切な管理方針の提案が評価され指定管理者に選定された。提案内容から、森林環境教育の場としての十分な機能の発揮と、長期的な森林の姿を見据えた適切な森林管理を行うことが期待されたところである。</p> <p>この提案に対して、園内の環境保全のため、マツクイムシ被害拡大防止、樹木管理、除草作業、人工林の適正間伐などを専門技術を活かして適正に実施し、快適な森林空間を提供しており、利用者の約8割から良好な評価を得ている。</p> <p>他機関のイベントにも積極的に参加して三重県民の森のPRを行うなど利用者増加のための取組を行った。特に、最終年度には「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」の関連会議(生物多様性国際ユース会議in愛知2010)のエクスクーション会場として積極的に協力し、里山体験の提供を行った。しかし、来園者アンケートで、イベントの開催情報について『知らない』と回答する人が『知っている』を上回っており、情報発信などの取組がさらに必要であったと考えられる。</p> <p>施設利用者数については、目標の12万人に対し最終年度の実績が11万7,100人で、目標数値には届かなかったが、平成20年度より約1,700人増えており、毎年徐々に増加している。</p> <p>また、業務執行体制では、事務分担や責任の所在を明確にするとともに、担当者を本所に2名、現地管理事務所に4名配置している。また、危機管理に関しても、各種マニュアルを作成し、自然災害や公園内の事故への対応や報告体制を、平日・休日ともに整備・実施するなど適切に行ってきた。</p> <p>3年間を通して、適正な施設管理や成果目標達成への取組などを積極的に行ってきたと評価される。</p>
--

- ※ 「2 管理業務の実施状況」の自己評価 :
- 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 - 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
 - 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
 - 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。
- ※ 「3 施設の利用状況」
「5 成果目標及びその実績」の自己評価 :
- 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 - 「B」 → 当初の目標を達成している。
 - 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
 - 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。
- ※ 県の評価 :
- 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 - 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 - 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。